

生命観や死生観の重要性：輪廻転生を仮説できれば、



NPO日本アーユルヴェーダ協会
理事長

上馬場 和夫

Kazuo Uebaba

座長 中島 佐知子

アルフォンス・デーケン氏の死生学は、悲嘆、死別、臨死体験、尊厳死、自殺、孤独死、死後の世界、いのちの教育など死の領域を取り扱う新鮮な学問として注目されてきた。日本の医療では避けていた領域だが、がん患者の増加で死を意識する人たちが増加し、とりわけスピリチュアル・ペインに対しては対処が困難な場合が多く、医療者自身を苦しめる場合があるため、生を扱う医療のなかで、死について取り上げる必要性がでてきた。医師の著者でありながら、死生学や死生観を取り上げた書籍も枚挙にいとまがない。

さらに『前生を記憶する子ども達』を世界中で調査・分析したヴァージニア大学のイアン・スチーブンスン博士や、ピーター・ハリソンの『前世を忘れない子供たち』、日本でも池川明氏や大門正幸氏らは、生まれかわりを科学しようとする努力がなされている。

また文化人類学的に輪廻転生について調査してまとめた竹倉久氏は、『輪廻転生：＜私＞をつなぐ生まれ変わりの物語』（講談社現代新書 2015 年）の中で、輪廻は、ほとんどの文明で存在しており、3 つの類型されるとまとめている。①再生型・・・世界中の民族文化に見られ、歴史的にも古層にある再生観念。②輪廻型・・・古代インドで生まれた転生思想。再生型の地縁・血縁の原理よりも抽象性の高い「カルマの法則」に支配され、どこに生まれ変わるかわからない「流転」的な概念。転生自体は望ましいこととなく、転生の輪から解脱が目的となる。③リインカーネーション（reincarnation）型・・・19 世紀半ばのフランスを席巻した心霊主義の渦中で生まれた。霊魂の進化が強調され、近代版の生まれ変わり思想であり、現代のスピリチュアリティ文化に大きな影響を及ぼしていると分類している。

以上のような生まれ変わりや輪廻転生が仮説されれば、デジャビュー既視体験から、何でもこんな病気になってしまったんだろう！など、人々が不幸と呼ばれる状況に陥った時に感じる不条理感に対応できる。また、何々恐怖症と言われる病態が、前世での死亡原因が関係するなどと推定できる可能性がある。

そのような記憶の異常が病気の原因となるのであれば、前世療法と呼ばれる催眠療法の一種により、恐怖症が改善したり、はたまたガンでさえも、催眠療法により改善したり（萩原優著『がん患者を支える催眠療法』太陽出版、2023）、また増加してきた高齢者の幸福度の増進できる可能性がある。。

以上のような、我々の生命が、記憶という領域をもった存在であり、輪廻転生をするという生命観は、古代インドのアーユルヴェーダのものでもあるが、最近、カナダなどで行われている MaID (Medical Assistance in Dying 医療介助死) の意義を支持する可能性があろう。さらには、人としてどのように生きるかなど哲学の意義が高まり、人類の平和と進化にも寄与できるであろう。

略歷

1978年広島大学医学部卒業。卒業時から東西医学融合をライフワークと決め、虎の門病院内科、北里研究所臨床薬理研究所、研究室長六本木クリニック院長などと兼任。1994年 シドニー セントワンセント病院SVH肺心臓移植センターにて顔診を臨床生理学的に研究。1999年、富山県国際伝統医学センターにて、インド、イスラム諸国、中国、ペルーなどの各国の伝統医学を調査。2008年、富山大学と漢薬学会協同研究所未病研究部門を名義。2011年から帝京平成大学ヒューマンケア学部教授。元日本統合医療学会指導員。NPO法人日本アールヴューダ協会理事長。一般社団法人日本アールヴューダ学會理事。ハリウッド大学大学院特任教授。東西医学の融合をすることで、「幸福を生き生き死の智慧であるアールヴューダ」を普及させる活動を行っている。著作：「新版インドの生命科学アールヴューダ」、農文協、2018）「アールヴューダとヨガ改訂第3版、金芳堂、2017」など。

所属団体等

日本東洋医学会
日本東方医学会
日本アーユルヴェーダ学会
日本抗加齢学会
日本仏教看護ビハーラ学会
日本山岳修験学会
NPO日本アーユルヴェーダ協会
一般社団法人日本アガスティアライフサイエンス協会

資格

ハリウッド大学院大学特任教授

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.